

V75a ペルー 32 m アンテナ計画の進行状況

Ishitsuka Jose、井上 允、大石 雅寿(国立天文台)、宮澤 敬輔(元国立天文台)、石塚 睦(IGP)、藤沢 健太(山口大学)、春日 隆(法政大学)、坪井 昌人(茨城大学)、堀内 真司(SKA)

南米ペルーのアンデス山脈に海拔3370 mの盆地に衛星通信用の32 mのアンテナがINTELSATの規格変更とともに最近では衛星通信には使われなくなり、我々はこのアンテナを電波望遠鏡としての再利用を検討し計画を進めている。アンテナと付帯設備は現在ペルー民間電話会社 Telefonica del Peru の所有であるがペルーの地球物理研究所に移転を進める上で、初期段階ではメタノール・メーザが受信出来る6 GHz帯の受信機を設置しモニタリングとサーベイを行う予定である。本計画ではペルー側では地球物理研究所が主体となりペルーの様々な大学・研究機関に参加してもらい、日本側でも大学等の協力を得将来共同研究を行い、オープンな国際的な観測機関を目指している。

本講演では本計画の概要、現状、およびその後の調査結果について紹介する。